

合宿まで残り3ヶ月となって、今の自分たちの現在地を確認するという目的でFB会を提案したものの、3ターン共に「伝わらない」壁にぶつかって、実力不足に愕然とした。質問に答えているつもりなのだが、相手が納得していないのはわかる。それに対して、答える方も、質問する方も、状況をどう打開すれば良いのかわからない。まるでチームItoの初期の頃に戻ったような感覚だった。

結局予定していた時間を大幅にオーバーし、全て陽子さんが間に入ってくれたことで、なんとか話がまとまった形だった。FB会の最後に陽子さんが言ってくれた「フィードバックの内容は良かった」という言葉に救われたが、その言葉がなかったら、全てだめだったと思ってしまっただろう。それ位全く手応えのない、焦燥感の募る結果だった。

あるメンバーのターンでは、時間の使い方に始まり、「1人では何もできないと思っている？」など、回りくどい言い方をしてしまったのだが、陽子さんは「過保護」という単語一つで表現していた。「過保護」という言葉自体は誰もが知っている単語で、語彙力がないと出て来ないというものではない。なぜその言葉が出て来なかったのか、mtgの最中も陽子さんに尋ねられたが、まず「過保護」という強いワードを使う程に思い切れていなかった(自分の中で確固たるものになっていなかった)こと、あとはそういう強い言葉を使うシチュエーションは、相手を攻撃する時や揶揄する時といったネガティブなシーンだと思い込んでいるところがあるなと思った。

「リスクのある言葉は使わないにこしたことはないけど、使わないと伝わらないのも現実だ」という言葉が陽子さんから

あったけど、リスクのある言葉を使ってでも、「伝えたい」と思えるかどうか。そこにどれだけ自分がこだわられるかなのだと思った。伝わるかどうかは言ってみないことにはわからない。ただ、言ってみて伝わらなかった時に、第二、第三の手として、信頼関係のできている相手に対しては、強い言葉をあえて使うという選択肢もあるということは理解できた。まずは“シンプルに伝える”ことを目指そうと思う。

他にも、伝えたいことがクリアになってなかったり、自分の意見を信じ切れてなかったり、色々な課題が露呈した**FB会**だったが、「もっとはっきり言って」と自分からウェルカムな態度を取ることでストレートに言ってもらいやすくなり、自分の見立てに自信がない時は、「他のみんなはどう思う？」と聞くなど、具体的なアドバイスももらった。ジャーナルにしろ、FB会にしろ、間違った方向にいったら、陽子さんが必ず指摘してくれると思うので、そこは安心して、合ってる合っていないを気にするのではなく、「伝える」、「納得のいく答えが返ってくるまで粘る」練習をしていこうと思った。

また、後日陽子さんが**FB会**の感想を音声で送ってくれたのだが、「当たり障りのない会話をするのが当たり前になっちゃってない？」という言葉が特に胸に響いた。結局コーチング練習会や**mtg**の時だけ頑張ったところで、日常生活の時間の方が圧倒的に長い訳で、日常生活全てをトレーニングとしている陽子さんとは差が開く一方だ。それでもクラス**A**の日々の課題が始まってから、毎日向き合う時間を取れるようにはなった。ただ、それでもまだまだ圧倒的に足りていないということだ。

「日常生活をどれだけトレーニングの対象にできるか？」が、これから合宿までの2ヶ月でどれだけ成長できるかの鍵になってくる。仕事の交渉事もトレーニングの一環というのは目から鱗で、「伝える」という意味では、工作中にもできることが沢山あるなとヒントをもらった。

足りない部分に引き続き向き合っていきたいと思う。

(E.M 40代女性 埼玉県)